



読書界 11月号

テーマ「アツくなるスポーツの本」

『義足でダンス ～両足切断から始まった人生の旅～』

エイミー・パーディ、ミシェル・バーフォード（訳：藤井留美） 辰巳出版

「もしあなたの人生が一冊の本だとしたら、どんなストーリーにしたい？」

19歳の時、病気で生死の狭間をさまよい、両足、腎臓、脾臓、左耳の聴力を失ったエイミー・パーディ。しかし彼女はソチ、そして平昌パラリンピックのスキーボード競技で銅メダルと銀メダルを獲得した。また、リオデジャネイロパラリンピックの開会式では美しいダンスで魅せた。彼女の強さに心を動かされ続ける気がします。

1年女子

『バッテリー』 あさのあつこ 角川文庫

この小説は、巧の球に魅せられた永倉豪が、彼とバッテリーを組むことを願う…、ここから始まります。巧は卓越した才能と自らの野球哲学を持っており、それを貫き通そうとして、多くの仲間と衝突してしまい、やがて彼の球を受けるキャッチャーでありたいと願う豪をも傷つけることになってしまいます。物語を通して、巧の基本的な姿勢は変わりません。マウンドに立つのは独り、背負うものは大きい。それでも、その視線の先には必ず女房役がいます。そこに、この作品の魅力があります。

野球好きな人だけでなく、どんな年齢や性別の人が読んでも訴えるところのある作品です。是非、皆さんに読んでいただきたい1冊です。

1年男子

『あと少し、もう少し』 瀬尾まいこ 新潮文庫

頼りない美術教員の陸上部顧問と、寄せ集めの6人が襷をつなぐ駅伝の物語。ばあちゃんと暮らしている渡部は、ばあちゃんの愛情がこもった弁当を渡される。部長の榊井は、もうすぐ大会本番というところでスポーツ性貧血と診断される。駅伝を諦めかけたとき、母親が背中を押してくれる。はじめはばらばらだった6人が、家族や周りの人々の応援のもと、成長していく様子にアツくなる。

2年女子

『アクアリウム』 篠田節子 新潮文庫

主人公・長谷川正人のダイビング仲間・純一が、奥多摩の地底湖に消えてから二週間。警察による捜査が打ち切られた地底湖。そこにたった一人で潜った正人は、危険だと言われる横穴を抜けた先で、変わり果てた純一の姿と、見たことのない巨大生物に遭遇する。パニックに陥り、死さえ覚悟した正人を導いたその「存在」の正体とは……。

著者による水の描写が繊細で、ついつい読者も潜りたくなってしまいうだろう。自分の「守りたいもの」について考えさせられる本である。

2年女子